

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025年 1月 31日				
事業所名		ててスクール 武蔵浦和教室				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	活動するスペースが確保できる様に、棚などの置き場に配慮している。	今後も必要に応じて机等を移動して、活動の場を広く使える様に工夫していく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	100%	0%	支援の滞りなどが無い様に、適切に配置できる様に配慮している。	今後も必要な職員を配置できる様に心掛けていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	教室が2階にあり、階段を使わないと入室できない為、バリアフリーが難しい面もあるが、教室内で扱う道具などに関しては、可能な限りバリアフリーに対応し、筆談や漢字が苦手な外国の保護者向けに、連絡帳をひらがなで書いたり、ルビを振るなどの配慮をしている。	建物内などの構造的なバリアフリーだけでなく、障害特性に合わせた情報伝達として、さらに伝わりやすい形式がないか検討していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	活動後に毎日掃除と消毒を行っており、特に問題はないと感じる。また、活動の内容に合わせて、机などを移動して、活動しやすい環境を整備している。	今後も清掃や消毒、整理整頓を徹底していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	静かな環境が好きな子や周りの事を気にせず、集中したい時等には、面談室などの個室を使える様に配慮している。	個室の数は限られるため、一度に利用できる人数が限られているが、今の所は、特に不満などが出た事はない。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	何かしらの目標がある時は、全職員で把握し、参加できる様に、毎日ミーティングを行っており、役職の有無に関係なく、意見を言い、業務改善に参画出来る様に配慮している。	今後も全ての職員が参画できる様に、意見の言いやすい現場を維持して行ける様に努力していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	保護者から頂いた評価表をまとめ、要望などに対する改善に努めている。	今後もアンケート等を通じて、保護者の意向を把握できる様に努めていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	毎日ミーティングを行い、全員の意見を把握する機会を設け、前日までの支援に関する情報を共有している他、意見や改善点などがあれば積極的に発言をしてもらう事で、業務の改善に繋げている。	毎日のミーティングを継続し、職員が意見を言う機会を維持していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0%	100%	現在、第三者による外部調査は行っていない。	第三者による外部評価は行っていない為、機会があれば検討していきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	市や社会福祉協議会による研修の他に、職員が希望する外部研修などがあれば、積極的に参加を促すと共に、法人内においても研修を実施している。 また研修を希望する職員が研修に参加できる様にシフトなども配慮している。	今後も積極的に研修などに参加できる環境を整えていく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	全職員間の話し合い等によって、日々の支援プログラムを作成している他、毎月のお便りやLINEなどで、支援プログラムを公表している。	HPなどでも活動の内容が分かりやすく伝わる様に工夫をしていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%	個別支援計画作成時のアセスメントの他、日々の連絡帳や送迎などの時間を使って、保護者の希望を伺い、サービス計画を作成している。	個々のニーズは日々変化していくので、サービス計画を柔軟に修正していくと共に、サービス計画だけに捕らわれることなく、常にニーズに対応した支援を心掛けていく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	サービス計画作成時には、必ずモニタリング会議を行っている。また、日々のミーティングや提供実績記録等を用いて、全職員が共通理解の下で子供たちの最善の利益を考慮した検討を行っている。	今後も全職員で子供の最善の利益を検討し、支援を提供できる様に、日々の子供達の情報を職員間で共有し、支援を行なう様に努力を重ねていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	サービス計画は、全職員が好きな時に閲覧できる様に配慮していると共に、日々のミーティングで支援状況などを確認している。	今後も職員間でサービス計画や子供の変化などの情報を共有し、計画に沿った支援を提供していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	日々の行動観察や利用者本人へに聞き取り、連絡帳や送迎時等に保護者への聞き取りや支援に対する希望などを伺っている。	日々の行動観察などでちょっとした変化などがあつた時には、ミーティング等で、すぐに話ができる体制を整えている他、連絡帳や送迎時等に保護者への聞き取りや支援に対する希望などのなどを伺っている。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	サービス計画作成時には、本人や保護者からの要望や必要な支援を何うと共に、全職員の意見を聞き、必要な項目を設定し、具体的な支援内容を設定している。	今後も子供の支援に必要な項目や具体的な支援内容を盛り込める様に、保護者や子供とのコミュニケーションを密にとり、必要な支援やその具体的な内容を設定できる様に努力していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	全職員が活動プログラムの立案出来る様にミーティングなどを通して、話し合いを行っている。	今後も全職員が活動プログラムの立案に参加できる環境を維持していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	工作などでも、活動プログラムが固定されない様に配慮している。	プログラムが固定化しない様に、職員全体で相談していくと共に、新しいプログラムの導入を積極的に検討していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	活動に合わせて、個別活動や集団活動に変えるなど、柔軟に対応している。	今後も、適切な個別支援と集団支援を組み合わせた支援を提供できる様に努めていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	毎日の支援開始前にミーティングを行い、役割分担や活動内容、前日までの子供等を共有し、チームで支援を行っている。	今後も職員間で連携して支援を行える様に、職員間のコミュニケーションを大切にしている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	100%	0%	支援終了時に気になった事や当日の利用者の様子、保護者からの要望などがあればを共有している。	今後も些細な事でも、気になった事をしっかりと共有できる環境を維持していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	日々の支援内容は必ず記録に残し、支援の検証や改善につなげている。	今後も小さな事もきちんと記録し、定期的に見直す事で、支援の検証や改善に努める。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	定期的なモニタリングを行うと共に、必要があればサービス計画の見直しを行っている。	今後も定期的なモニタリングとサービス計画の見直しを行って行く。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	100%	0%	ガイドラインに沿った支援を行っている。	今後もガイドラインに沿った支援を行って行く。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%	進める課題をご自分で選択したり、工作などを作成する際も、自分なりのアレンジを行う等、小さなことから自己決定出来る様に支援を行っている。	子供が自己決定をしやすい様に環境の整備に努める。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	会議には、日常的に子供達の支援に直接関わっている職員が参画している。	今後も子供を理解している職員が参画できる様に配慮していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	必要に応じて、関係機関と連絡を取り合っている他、学校等のイベントなどがあれば積極的に参加する事で、連携を深めている。	連携して支援を行う体制は整えられているので、今後も情報を共通して支援を行って行く。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	0%	必要に応じて連絡を行っている。	必要に応じて情報交換などを行っているが、個人情報の保護の観点から、なかなか連携が難しい所がある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%	0%	引継ぎ事項などがあれば、連絡を取り合い、情報の共有と相互理解に動いている。	今後も情報の共有と相互理解に努め、子供が安心して支援を受けられる環境の整備に務めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0%	100%	引継ぎ事項などがあれば、連絡を取り合い、情報の共有と相互理解に動いている。	今後も事業所間への引継ぎを円滑に進められる様に情報を共有していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100%	0%	研修に参加したり、必要に応じて、電話相談等で助言を受けている。	積極的な連携出来る様に、日ごろから連携を深めていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	100%	0%	近くの保育園や季節柄のイベントなどの際に交流するイベントを行っている。	主にイベントでの交流であるが、さらに交流を深めるよう検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100%	0%	部会の案内などが来た際には、参加するようにしている。	協議会のテーマによっては、参加しない事もあるが、より積極的に参加をするようにしていきたい。
保	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	連絡帳や送迎時、電話やメールなどを使って、日々情報を共有する事で、共通理解に動いている。	なかなか直接会ってお話する機会が無い保護者もいらっしゃるので、今後も連絡帳やメール、電話などを積極的に使いながら、情報を共有を行って行く。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	0%	毎月のお知らせやLINE等を使って、家族支援に関する研修の情報提供を行うと共に、保護者会などの機会を作っている。	今後も家族が参加できる研修等の機会を多く提供できる様に努める。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	契約時に必ず重要事項や運営規定、支援プログラム、利用者負担等について、口頭で読み合わせを行うと共に、疑問点等にお答えする形で説明を行っている。	今後も丁寧な説明を心掛ける。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	サービス計画作成前に、必ずヒアリングを行い、本人と保護者のご要望などを確認している。	子供と保護者の意志や子供の最善の利益を踏まえながら、意向を確認できる様に今後も努力する。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%	サービス計画作成後は、必ず保護者に確認の後、同意を得ている。	より丁寧な支援内容の説明が出来る様に努力する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%	面談の希望は常に受け付けており、希望があれば、随時面談を行っている他、送迎時の時間や電話やメール、連絡帳等でも、相談や助言などの支援を行っている。	今後も適切な面談や助言などの支援を行える様に努力する。

護 者 へ の 説 明 等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	コロナ過の影響で、保護者会が一時休止していたが、今年度から再開予定。	定期的に保護者会等を開催する事により、保護者の交流する機会を提供できる様に努める。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	苦情に対応する体制を整備しており、苦情等があった場合には、対応を協議して、再発防止に勤めている。	今後も苦情などに対して丁寧に対応し、満足いただける支援の提供に努める。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	毎月のお便りや公式LINE等を通じて、活動内容や行事の予定などをお知らせしている。	今後も、情報が分かりやすく伝わる様に積極的に発信していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	鍵付きの保管場所に保管し、外部に流失しない様に厳重に管理をしている。	今後も個人情報の取り扱いには十分に注意し、外部に漏れないように細心の注意を払っていく。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	話すのが苦手な子の為に、筆談出来る様に配慮している他、漢字が苦手な保護者様の為に、必要に応じて、ひらがなやルビをふる等の配慮を行っている。	今後もより一層、子供や保護者との意思の疎通を行いやすくする為に必要は処置を講じる等、情報伝達の為の配慮を行う。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%	近くの保育園と交流するイベントを行う等、地域に開かれた施設運営を行っている。	今後も、近隣の保育園などをイベントを行うと共に、更なる地域交流を検討し、地域に開かれた事業運営を行って行く。
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	各種マニュアルを作成し、供覧できる様にすると共に、各種の訓練を行っている。	今後も継続的に訓練を行って行くと共に、マニュアルなどの周知徹底に勤めていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	業務継続計画（BCP）を策定し、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	今後も必要な訓練を継続して行って行くと共に、AED等の装備を充実していきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	事前に服薬やてんかん発作等の支援を行う上での配慮すべき点や発作時の対応などを確認し、アレルギーなど情報は毎年定期的に更新する等の対応を行っている。	入所時に持病やアレルギーの確認と、発作時の対応などを確認し、アレルギーなど情報は毎年定期的に更新しているので、今後も継続していきたい。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	ててスクールではお菓子の提供を行っておらず、教室内でお菓子を食べる事は無いが、イベントでお菓子などを配る際には、必ずアンケートなどでアレルギーの確認を行うと共に、万が一の際の対応を保護者様に確認している。	今後もお菓子などを提供する際には、原材料の確認と万が一の際の対処法を保護者に確認する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	安全計画に基づいた研修や訓練、ヒヤリハットなどの検討などを行った上での支援を提供している。	今後も必要な研修に参加すると共に、研修を行う事で安全管理の徹底を図っていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	万が一の際の避難場所への経路などをお知らせすると共に、災害伝言ダイヤルやLINE等の連絡手段の確認や日々の通所に関する安全対策の徹底のお願いや安心メール等を使った通所や退所の際の連絡を行っている。	今後もご家庭に通所時の安全対策の徹底をお願いしていくと共に、訓練などを通じて、いざと言う時の対応策を確認していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	ヒヤリハットや事故記録があった場合は、活動前のミーティング等で、全職員に説明する等、すぐに全体への周知が出来る体制を整え、教室全体で対応策を協議している。	ヒヤリハットがあった時は速やかに検討できる様に、今後も職員間のコミュニケーションを密に取る事が出来る環境を整えていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	職員の研修への参加は勿論、研修に参加できなかった職員には、研修に参加した職員からのフィードバックを受けられる様に、研修の報告書の作成やミーティング等で報告できる機会を作っている他、研修動画等を見れるように配慮している。	職員が研修に参加できる機会を維持していくと共に、今後も動画などで新人職員にも分かりやすく虐待について学べる様にする。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%	現在、身体拘束を必要とする利用者はいない為、サービス計画に記載はしていないが、やむを得ず拘束する必要性が生じた場合は、委員会での組織的な決定や子供や保護者に事前説明をし、事前説明を行い了承を得ないと行けない事を周知徹底している。	全職員に対する研修を行い、やむを得ず身体拘束を行う時の注意点、特に自己判断で行えない事を周知徹底し、必要と思われる事例があれば、必ず委員会を通して保護者に説明を行い、了承を得た上で行う体制を構築しているが、現在の所拘束が必要な利用者がいない為、研修などを通じて問題意識を持ち続けらる様にしている。